

街かど
gallery八女市吉田
橋爪 紀子

知って得する保険の知恵袋

第2回 がん保険は必要なのか！

平成21年度、交通事故によって全国で約5千人の尊い命が失われました。では、がんでお亡くなりになられた方はどのくらいいらっしゃると思いますか？

なんと、34万人超。今や男性の2人に1人、女性の3人に1人が罹るとされている病気です。一方で、医療技術の進歩により、「早期発見」ができて「しっかりと治療」が受けられれば治るようになってきた病気でもあります。

がん治療に万全に備えるには、先進医療や自由診療といった公的診療の対象外となる治療も視野にいれて考える必要もあるでしょう。

2013年には、九州で初となる「重粒子線がんセンター」が鳥栖に開業予定です。ここでの治療は、公的診療の対象外となる為、300万円程度の費用が必要となります。こうした治療費が高額となることから、がん保険などでの治療費負担リスクに備える必要性は高いと言えるのではないのでしょうか。

最近の新しい商品には、先進医療や抗がん剤による治療等に対応できるものも数多く開発されていますので、複数の保険商品の中から選択されることをお勧めします。但し、がん保険は「もしも」のときの経済的負担を少しでも軽減させる手助けにはなりますが、最も重要なのは「早期発見」です。そのためには、何よりも健診等の定期的受診をお奨めします。八女市をはじめ、各市町村自治体でも実施されているものもありますし、久留米市の古賀病院21等でPET健診をするのも良いでしょう。

自動車をお持ちの方は定期的に車検を受けられていると思います。にもかかわらず、最も大切な自分やご家族の「からだ」についての定期的な検査を受けていないとしたら、あらためて考えてみると不思議な話ですよね。

代表取締役 山下剛司
0943-3215584

眩き

桜さくら

今まさに、季節は春にスィッチオン！野山は新芽の光に溢れ、街中の至る所で花が咲いている。そして、今年も桜の花が開き始めた。日本人は桜が大好きである。平安末期の歌僧西行には、桜の歌が二百首以上あったという。自然をこよなく愛した西行だったが、特に桜への傾倒はすさまじかった。現代に生きる私達が桜を愛でるのは、かの西行の影響ではないかと私は密かに思っている。『ねがはくは花の下にて春死なんその如月の望月のころ』。

「如月の望月」は旧暦二月十五日の満月の頃で釈迦の命日にあたる。西行が没したのが二月十六日。釈迦に一日遅れての旅立ちだったことも、意味深長である。希望の象徴のような桜ではあるが、私は背後に死の影を感じてしまう。桜の木の下には、人間の屍が埋まっているという話があるし、懐かしい死者の霊を感じることもある。満開の花が散り、葉桜、桜紅葉となつて土に還ってゆく。そして春が巡り来れば、再び芽吹く。毎年繰り返される自然の営みと、そこに生きている私達。昨年一緒に桜を愛でた人が、今年も変わらずそばに居るとは限らない。桜には哀惜の情がある。だから切なくなるほど桜が好きなのだ。

この上なくやさしい色から色の花びら、今年は誰と見上げようか。

蓉子

早春を力走！マラソン大会復活

八女農業高校

2月4日(金)、矢部川沿いの宮野公園を中心としたコース(男子7km、女子4km)で、20数年ぶりにマラソン大会を開催することができました。当日は、透き通った青空の下を暖かな陽光を全身に浴び、1、2年生がゴール目指してひたすら走りました。ゴールした生徒達に保護者から、本校のペットボトル茶を配っていただきましたが、実に美味しそうに飲み干していました。

4月の校内販売所(八女農みらい館)の開館日

1日(金)、5日(火)、8日(金)、12日(火)、19日(火)22日(金)、26日(火)
毎週火曜日と金曜日の2回定期的に販売しており、販売時間は、10時30分～15時30分です。

(※1日(金)、5日(火)の販売時間は、10時30分～12時30分です)
多くの皆様のお越しを心からお待ちしています。



十年ほど前、屋久島を訪れ、悠久の時を越えて、大地にどっしりと根をおろした屋久杉の威風堂々たる姿に圧倒されました。その後、水墨画を学ぶ機会を得、屋久杉を描いてみました。先生やサークルの仲間にも勧められるまま、初めて八女市総合美術館に出品しました。全く思いがけず賞までいただき、ただ驚くばかりです。

ゆめみらい図書館(黒木町)

この名称には子ども達や住民みんなの夢や未来をはぐくむ場所になってほしいという想いが込められている。

ガラス越しに山や矢部川の自然が広がり、心癒される。ペランダにはベンチやテーブルが置かれこんな環境で読書できるなんて素晴らしいと思います。

また「ティーンズルーム」という中高生達の読書室もあり、生徒さんたちが読書をしたり調べ物をしていました。

司書の横溝さんと武藤

さんから図書室の利用状況について教えてもらった。利用は土曜・日曜が多く、平日は大人が多い。子供さんを連れてお母さんが絵本を読んでもあげる人も多いということで、読書好きな子が育つだろうなあと期待している。男女別の傾向は男の子は乗り物、昆虫、車の本、女の子は絵本・物語・物語が多い。利用が少ないのは古典、文学。大人は趣味の本、小説、園芸、自分の仕事に関する本が多い。

遠くに来館できない人



司書の横溝さん(右)武藤さん

のために移動図書館ゆめみらい号で職員の田島さんが学校、保育園、集会所を巡回してある。図書館は住民とボランティアグループで支えられていることに感謝した。

(月足 美智子)

花の山旅 ⑥

川崎病院医師 日吉澄之

本年2月マレーシアのジャングルに寄生植物と食虫植物を見に行きました。特に驚いたのは寄生植物ラフレシア。

ぶどう科の蔓に寄生するラフレシアは数ヶ月かかってキャベツ大のつぼみとなり、開花後5、6日で消えてしまう変わった植物で、開花を見るのはなかなか出来ないとのこと。原住民のハンターは毎日ジャングルを歩き回りどこにいつ咲くかわかっている。私の出会ったラフレシアは、ラフレシアケイリーとカントレリーの2種。どちらも大きさは約85cm。素人にはどの種類か判断できない。左



のつぼみがちょうどキャベツ大で次の開花を待っている。開花に時間がかかるのは1度に栄養を吸収すると宿主が弱ってしまうためだそう。その他困ったことは、山蛭の襲撃を受け出血が止まらなかった。